

もある、ありふれたもの。一般的なもの。」と書いてありました。人間で障害を持っていなかったら、「普通」なのでしょう。私は以前、「みんな小さな障害を1つは持っています。」という言葉に耳にしたことがあります。それは、体や心、声など様々だと思います。つまり、大小関係なく障害を持っているのが普通なんだと思います。その中でも目立つ障害を持っている人のことを、私たちは「障害を持っている」と言っているのだと思います。

倉本さんは私よりも年が小さいのに、障害について強く考え、物語を作ったことに驚きました。私たちは、まだまだ障害のせいでも苦しむ人たちのことを知っていません。知らなければ、行動にうつすこともできません。1人ひとりが障害について知り、生かすことが大切だと思います。倉本さんの作品には、色々な思いが込められていると思います。私たちはその思いを感じていけたらいいなと思いました。

■■■■■■■■■■ (中1生)

僕は中学1年生になって、今回初めてNewsletterを読まさせていただきました。このようなことを書いているうちに、自分の書いていることが恥ずかしくなってきました。しかし、それよりも初めて読むNewsletterへの感想はとても大きなものでした。

まず、なによりこのNewsletter自体に強く関心を覚えました。この92ページの1ページ1ページから、波多野先生の「生徒への強い思い」や「努力」のようなものが伝わってきました。波多野先生の作ったNewsletterを来年も再来年も楽しみたいと思えました。

次に、特別に心に残ったのが64ページの会長挨拶の3行目の「どうぞよろしく願い致します。」です。一見普通の挨拶にも見えますが、僕はこの一言から、波多野先生の堂々とした立ち居振る舞いが強く想像できました。そして、一つの目標となりました。「自分も堂々と胸をはって生きたい」と。今回、Newsletterでの発見は、自分自身に大きな影響となりました。素晴らしいNewsletterをありがとうございます。

■■■■■■■■■■ (中1生)

楽しみにしていたNewsletter82号が届きました。最初に開いたのは「第24回英国研修ツアーとパリの旅」のページです。私はずっとイギリスに行ってみたく思っているのですが、この体験記を毎回楽しみにしています。イギリスとまた文化の違うパリの様子もよく伝わってきて、海外への興味が更にふくらみました。先輩方のツアーレポートは読みごたえがあり、たくさんの学びがあったことに感動しました。

次に読んだのは「中学3年生英語学力調査結果について」です。今ちょうど学校の定期考査の前で、何か学習のヒントになることがないかと思ったからです。英文の構造や文法など、小学校とはまた違った、更にふみ込んだ学習には何が

必要なのか。中学校に入ってからずっと悩んでいましたが、今回この記事を読んで、「大切なのはバランスなのではないか」と感じました。発音・文法・スペル・聞く力、どれもとても重要です。H.E.H.で私たちが指導していただいていることは、それらを全てバランス良く育て、やがて大学受験から社会に出て働くまで強い武器となる英語力につながっていくのだと思いました。

バランスが偏ることなく学び、マナーを身につけ、いつか海外にはばたける大人になりたいと改めて思える、読みごたえのある一冊でした。

■■■■■■■■■■ (中1生)

私が今回のNewsletterを読んでたくさん心に響く記事があった中、とくに印象に残った言葉があります。それは、「日本の察する文化」という言葉です。言葉としては短いかも知れませんが、私は社会に出てははずかしくない大人になるには知っておくべき、大切なことだと思います。

そもそも日本という国は島国なので、「相手と自分が同じこと」が前提になっており、民族の同質性が高く、気が利かない人や空気を読めない人への評価は低くなりがちなのだそうです。

私は中学校で吹奏楽部に入っています。その中で、先生に対する態度はもちろん、先輩との上下関係を通して目上の人への接し方を学んでいます。みんなで目的を達成するためにまずは自分がやるべきことを速く確実にすること。さらに周りの状況を見ていかに役立つ行動ができるかが大切であることを教えられました。

この「察する能力」は、この先大人になって社会人として生きていくために必要なことだと思います。ただ、空気を読みすぎて自分の思いを殺してしまったり、まちがった方向にも流されてしまうようでは意味がありません。

そうではなく、まわりと調和しながら自分の信念をしっかり持ち、それを表現していければと思います。そのためにたくさん勉強して、視野を広げ、正しいかどうかを見極められるような大人になりたいです。

■■■■■■■■■■ (中1生)

私が今回のNewsletterで心に残ったのはマララ・ユスフザイさんの志です。マララさんは最年少でノーベル平和賞を受賞しました。その内容は女子教育についてです。自身のつらい経験を話し少しでも良くしようとしています。

自分のことを話したり、志をつらぬき通すのは簡単ではないと思います。受賞した彼女が言ったのは、「数百人を相手にしかできなかったが、ノーベル平和賞を受賞したことで、今は数百万人に伝えることができる」でした。世界的に有名な賞を受賞しても彼女の志は変わりません。決して上から目線にならず代表として多くの人の前で

ど多くの人を助けられるような人になりたいです。日本や海外も視野に入れて考えていきたいです。そのために日々、教養を身に付けていきたいと思いました。

■■■■■■■■■■ (中2生)

私は今回のNewsletterを読んで、世界の偉人たちの「言葉の力」というところが印象に残りました。特にその中でも、英国の政治家、ウィルソン・チャーチルの「たこが一番高く上がるのは、逆風の時である。順風の時ではない」という言葉に、とても驚きました。

私はこの言葉の意味をこう考えました。たこは私たち人間のことで、「私たち人間はうまくいっている時より、うまくいっていない時の方がより成長できるんだよ。」という意味だと思います。私はまさにその通りだなと思いました。確かにうまくいっている時は、油断してしまうし、あまり喜びも感じられません。でもうまくいっていない時は、たとえ失敗してもより多くのことが学べるし、成功したら達成感もより大きいと思います。

似た意味の言葉に、「ピンチはチャンス」という言葉があります。まさにその通りで、ピンチこそ、自分が成長できるチャンスになると思います。私も、ピンチをあきらめることなく、自分という「たこ」が空高く舞えるように頑張っていきたいです。

■■■■■■■■■■ (中2生)

僕が今回のNewsletterで心に残ったのは「言葉にある2つの力」です。

僕はこれまで特に何も考えずに言葉を発していましたが、この文を読んで深く考えました。特に心に残った言葉は2つあります。一つ目は「言葉を選ぶとき自分の気持ちも整理できる」です。これまで何も考えずに言葉を発してきた僕にとって心に残りました。相手に気持ちを伝えると、そのおかげで自分にもその言葉が響く。とても印象的な言葉でした。

そして、もう一つが「言葉には連鎖する力がある」という言葉です。善意を受けた人は次に善意ある行動を起こす。なのでこれからは人に善意ある行動をしていこうと思いました。今回のNewsletterで特に心に残った二つの言葉を常に頭の中で意識して行動していきたいです。そして、これからは、自分が発する言葉についてよく考えていきたいです。

■■■■■■■■■■ (中2生)

今回のNewsletterを読ませていただき、一番印象に残ったことは「子供が憧れる存在であるエンジニアを目指す」のところでした。そこではピンチなようでもチャンスはあると書いてあり、心を動かされました。僕は基本的に悲観主義であるためピンチの時にはあきらめがちです。しかし、ピンチの時にもチャンスを見いだす、つまりポジティブに捉えることで世界をリードする存在になりうるかもしれないことがあるということは自分

が日ごろ生活していく中で、常にポジティブに生きていく必要性を感じられました。

H.E.H.で英語をこれからも学ばせていただき、英語をしっかりと学んで、ポジティブに過ごし、世界をリードできるような存在になりたいです。

■■■■■■■■■■ (中2生)

今回のNewsletterの中で私が一番心に残っているところは下松・日立笠戸で生まれた高速新車両、ロンドンへというところでした。私は今、学校の総合学習で「萩」について学んでいます。その中で出てきた長州Fiveの一人、井上勝についての記事で目に止まりました。

歴史では井上勝は鉄道を作ったというように誰々が何をしたとだけ記されています。その人のそこにたどりつくまでの過程はあまり記されていません。そのため、その人の苦労を私は、全然分かっていなかったと思います。なのに私は少し勉強して、テストを受けています。テストが悪くても、勉強した、といい気になっていると思います。幕末という激動の時代に生を受け、「志誠」をつらぬきとおし、勇敢に行動した私たちの多くの先輩たち。その努力は私が思っているものどころではなかったと思います。だから、私も結果がでるまでしっかり勉強していきたいと思っています。

■■■■■■■■■■ (中2生)

今回のNewsletterを読んで、まずはすぐに、イギリスとパリへ行って貴重な体験が出来たことを改めて思い出しました。そして、この経験を生かした行動が今出ているかを考えようと思いました。

私はまず、「郷土の誇り」のページが心に残りました。特に、「下松・日立笠戸で生まれた高速新車両、ロンドンへ」というところでした。私は、文化祭で『『君の志は何か!』～維新のふるさと萩を訪れて～』という題名で劇をしました。そして、井上勝のことについて少し触れたからです。また、東京駅前には井上勝の像があるなどと井上勝のことをたくさん聞いて気になって少し調べたので心に残りました。

そして、言葉の力というところでは、「へえ～」と思うことが多く勉強になったなと思いました。例えばアイルランドの文学者・劇作家のバーナード・ショーさんの「人生には2つの悲劇がある。1つは心の欲するものが手に入らないということ。もう一つは、手に入れてしまうことである」という言葉です。私はこの言葉を目にしたとき一瞬「？」と思いました。でも、すぐに、なるほどと思い、この言葉はいいなと感じました。また、なぜ日本人があいまいな答えを言うのかということも分かったし、「言葉」の力についても分かりこのページは勉強になったなと思いました。

他にも、「志に生きる」というところでは、「すごいな」「カッ

つと同時に小さな事でも幸せと感じられる人になりたいです。

■■■■■ (中3生)
私がNewsletterを読んで、心に残ったのは、「準備を怠ることは、失敗の準備をすることだ」という言葉です。私は、学校のテスト勉強で、自分では、勉強しないといけなと分かっている、今日は、すこしくらいいいかなと思いつつ勉強を怠ってしまうことがときどきあります。しかし、勉強を怠っていたら、いい結果はできません。私は、休むときは勉強するときの時間を決めて、休むときは、しっかり休んで、勉強するときには、集中してやるというメリハリをつけることが大切だと思いました。勉強するときにも、自分にあった勉強法で取り組み、時間を効率よく使うことが必要だと思いました。これから、より授業の内容は複雑になってくるとは思いますが、あきらめずにがんばっていきたくて思いました。また、勉強以外のことも、準備は怠らずにがんばっていい結果を残せるようにしたいです。

■■■■■ (中3生)
今回のNewsletterで、一番に目に入ってきたページが、第24回 英国研修ツアーとパリの旅でした。私は、早く、外国に行って、外の世界を自分の目で、みたいからです。掲載されている、たくさんの素敵な写真を見ながら、海外研修ツアーの日記を読み進めていきました。読み進めていくうちに、すごく、自分も現地にいるような感覚になり、すごく楽しく、すごく興味をひきました。そして、ますます、自分の夢である海外に行きたいという気持ちが、強くなりました。読ませてもらって、本当にありがとうございました。
世の中のことを知らない私は、いつも、Newsletterで、私の知らない事、たくさんの事を学ばせてもらえます。当然、今回も、たくさんの事を、教えてもらえました。
私が、今回のNewsletterを読ませてもらって、一番心に残った言葉は、
「志が宿れば、気が入る、気が入れれば必ず道は拓ける。」
「妥協という強敵と戦う。」
という言葉でした。中3の私は、今までの時間を、決して後悔することなく、必ず道を拓ける、この言葉を信じて、毎日を過ごしていきたいと思いました。
「努力は才能に勝る」
この言葉は、H.E.H.に通って教えてもらった、私の大好きな言葉です。
日本語もまだまだなのに、英語が、早く自分のものになる時を夢見て、毎日を楽しく、努力を怠らないよう、日々、甘やかされることに反発して過ごさせていけたら、と思います。

■■■■■ (中3生)

私が今回、Newsletterを読ませていただいて、心に残ったことは、「妥協という強敵と戦う」という言葉を見たときにドキッとさせられたことです。
「妥協という強敵と戦う」という言葉は、受験生の私にとって心にずっしりと重く入ってきました。考えてみると私はよく、「これぐらいでいいだろう」と自分にいつも妥協して「キツイ」と思うことから逃げているように思います。楽な方に楽な方にとつらい道をさせています。きっとこのままだと、成長しないまま受験を迎えていたと思います。楽な方に進んでいたのだから、自分の限界を知らないで、自分に自信がないままだったと思います。だから、この言葉に会えてよかったです。「妥協」と精一杯戦って、成長した姿を支えてきてもらった親に見せたいです。自分に自信を持って受験に望みたいです。受験会場に胸をはって堂々と歩ける自分でありたいです。戦って勝ってみせます。

高校クラス生より

■■■■■ (高1生)

今回もNewsletterを読ませていただきました。その中でも特に印象に残ったのは「言葉の力」という記事です。記事の中でも最初に目に入るところに「しあわせはいつもじぶんのこころがきめる」という言葉と一緒に、何に幸せを感じるか、現代に足りないものは何かが書いてありました。最近「達成感」に幸せを感じるという人がいると挙げ、実は多くの場合では物事を達成するまでの過程に対し、最大幸福を感じているということを書いていました。よく考えてみるとその通りで、委員などの仕事をするにしても、やはり自分なりに工夫して呼びかけ、反応が悪ければ改善し、さらに向上していくことは大変だったけれど、今思えば充実した毎日を過ごしていて、楽しかったです。やはり楽しいとまたチャレンジしようと思うし、自分で幸福を感じることができると思います。しかし、最近では、どこか味気ない世界が目の前に広がっているような気がする時があります。それは自分の心が幸福を手に入れようとするのをやめているのだと思います。「不満・不安・不信」のようなネガティブなワードで自らの頭をあふれさせるのではなく、小さな幸福から自分自身のモチベーションを上げてこれからの毎日を頑張ろうと思います。

■■■■■ (中3生)

私は今回のNewsletterを読んで、まず「Global Eye」のページが目にとまりました。そこには、グローバル企業が増え、社員の外国人の割合が増えていることが書かれていました。最近では多くの大企業が海外に進出しており、働くうえで外国人とのコミュニケーションに英語は必要不可欠だと思いま

ている海に浮かんだ大量のプラスチックごみの画像もとても悲惨です。

そして近頃台風が後を絶ちません。台風も地球温暖化が関係しているため、千葉県のように多くの被害が今年は特に発生しています。

地球温暖化が深刻なことはわかっているのに何もできていない今の状況から抜け出すためにも決して他人事のように考えるのではなく自分のことのように考えて「地球規模で」尽力していかないといけないのだと強く感じました。

（高Ⅱ生）

Newsletter 82号を読ませていただきました。今回も、様々な分野において志を持って世界で活躍されている方々やH.E.H.の卒業生の方々の記事にとっても刺激を受け、自分自身の将来について考えるきっかけとなりました。

以前から、私は将来の目標を見つけることができず、早く見つけなければいけないと焦ることがありました。Newsletterの「志に生きる」の記事に書かれてあるような方々はきっと今の私より若いうちから人のためにこんなことをしたいと考えて行動されてきたのだろうし、私の周りにも、すでに目指していくものを決めていく人がたくさんいたからです。もちろん、計画性を持って生活できる点や、時間を有効に使うことができる点など、目標を持つことの良さはたくさんあると思います。しかし、私は最近、必ずしも将来の目標を早く決めなければならないわけではないのではないかと考えるようになりました。そう考えるようになったきっかけは、学校のOBの先輩方との交流です。

私の通う学校では、大学生の先輩方のお話を聞くことができる機会があり、大学生活や、高校でどのように勉強されていたのかなどを知ることができます。その先輩方の中には、意外にも将来の目標がはっきりしていない方もいらっしゃいました。そのような方々とお話しさせていただいて、今では、将来の目標を決めることを急ぐのではなく、いつか叶えたいと思える目標ができたときのために今できることを精一杯やろうと考えています。

これからも、H.E.H.にはお世話になるとは思いますが、よろしくお願ひします。

（高Ⅲ生）

私が今回Newsletterを読ませていただき、強く感じたことは、行動することの大切さです。

まずは、温暖化対策を訴える16歳のグレッタ・トゥンベリさんについてです。彼女は先日、気候変動枠組条約締約国会議で演説し、演説に至るまでにも、週に一度授業に出ずにストックホルムの議会前で座り込みを続けるなど、地道に活動してきました。私は、権力も地位もない彼女が、自分の強い意志だけをもって行動し、世界中に影響を与えたことに感銘を

受けました。私にも志と言えるものがありますが、実際に行動しない限り、「志に生きる」とは言えないだろうと思いました。また、彼女のような意志と行動力がなければ、世界を動かすことは決してできないだろうと思いました。私も、できるかできないかを考えるよりもまず、強い意志に従って何か行動を起こしていこうと心に決めました。

次に、今春卒業された先輩方のメッセージにも心に残るものが多くありました。大橋先輩の「現状に満足せず、積極的に物事に取り組む」や、津田先輩の、「自分の能力で確実に処理できる範囲を超えたことをやろうとする」「経験は、確かに志達成の糧となる」などの言葉に、やはり実行、挑戦すべきであると奮い立たされました。書き切れませんが、その他にも多くの言葉が、特に受験生である私にとってはげまじや、教訓となりました。ありがとうございました。

私も、「自分は志に生きている」と断言できるように、強い意志を持って、それを実行していきたいと思ひます。

（高Ⅲ生）

今回も、Newsletter読ませていただきました。

どの記事も興味深くあつという間に読み終えることができました。その中でも、P29～P32にあった「志に生きる」というページがとても印象に残っています。どの人にもそれぞれのエピソードがあつてその過程を踏まえた上でどのような志を持って活躍されているのかに興味深く読むことができました。中でも、私が印象に残っているのは、照屋エイジさんの「日本で外国人に寄り添う弁護士を目指す」という記事です。自分も将来英語で社会に貢献できる看護師を目指しています。東京などでは、外国人の方がたくさんいる分、医療の場面でも英語力は必要になっていると私は考えています。なので、英語を必要としている人が日本でもスムーズに治療を受けられるように、大学に進学できたら英語力はもちろんどんな外国人でも話しかけられるコミュニケーション能力や、自分から積極的に動く自主性なども身につけるためより一層頑張ろうと思ひます。

そのためにも、英語を学ぶ環境が整ったH.E.H.で残りの時間もどんどん英語力を吸収していきたいです。

（高Ⅲ生）

今回のNewsletterを読んで印象に残ったのは「言葉の力」というページです。身近で、普段特に意識せずに使っている言葉について改めて考えさせられました。日本特有の「察する文化」は今回、海外研修ツアーで日本を客観的に見たことではっきりと実感しました。外国ではあまり見られない日本が誇りに思える文化だと思います。意思表示をすることも大切ですが、相手を思いやれる気持ちも大事にしていきたいです。

言葉は人を幸せにしますが、一方で人を殺すこともあります。

そんな言葉を上手くコントロールし、相手も自分も幸せにすることができるような、そんな温かみのある人間になりたいと強く思いました。

■■■■ (高三生)

Newsletter 82号読ませて頂きました。

どの記事も詳細に記述されており、世界標準と比べて自分が何が足りないのか深く考えさせられました。中でも印象に残ったのは、Global Eyeと英国研修ツアーの記事です。楽天が社内言語に英語を採用したことは知っていましたが、社員ほとんどが外国人の日本企業があることは初耳で驚きました。記事に千葉大学で海外留学が必修になったとあったように、変わりゆく世界に対応するためにはやはりグローバルに経験を積むことが必要不可欠になってきていると実感しました。そのために欠かせない海外留学ですが、H.E.H.で共に学んでいる仲間がツアーに参加しており、とても良い刺激を受けました。今回私は部活動との兼ね合いで残念ながら参加が叶わなかったのですが、せめてその概要だけでもと思い、興味深く拝見しました。すると、参加した皆さんのレポート全てに共通して、日本人と外国人のGapについて記されていました。よく聞く話ではありますが、グローバル世界において大勢の外国人と渡り合っていくためには、相手を受け入れ、自分の意見は物怖じせず言う姿勢が本当に求められるということが分かりました。

来年、私は大学に進学します。大学で語学力を磨くのはもちろん、人間力も培っていきけるよう、自分から学びを求め、それを自らの糧にしていきたいと強く思いました。

■■■■ (高三生)

Newsletter 読ませていただきました。

私が今回、一番印象に残ったのはGlobal Eyeのドナルド・キーンさんの記事です。というのも、私がこの記事を読んで彼の「国境や立場を越え、人々を結びつける文化の力を信じた。」という生き方に共感し尊敬したからです。私は部活のおかげもあって外国の音楽に触れる機会が高校に入ってから多くなりました。それまでほぼ全くといっていいほど外国の音楽に触れてこなかった私は最初こそは興味がなかったのですが、外国の音楽の作りや曲の背景、そして何よりも今の日本の音楽とはまた違った叙情的なメロディや堂々とした曲に次第に惹かれていきました。今では外国の音楽も好きでよく聞かし、それと同時に、時代も、国も、話す言葉も考え方も違う人が作った曲を私も享受することができ、私みたいな人が世界中にも沢山いるんだろうなと思うと感動します。話す言葉の違う人同士が一枚の絵を通して共感を持ち、話し合えたり、考えの合わないと思っていた人同士がたった一音でわかり合えたり、すごく大きいです。そういうことがこの世に沢山あって、やっぱり文化の人を結びつける強い力を感じ

ます。ドナルド・キーンさんはそれを信じ、さらに自身が文化を紹介することで人々を結びつけることに貢献していらしてすごいなと思いました。私も日本文化の良い所をもっと海外の人に伝えたいし、自分が海外の文化に感じたことをその国の人に伝えて思ったことを共有できたら楽しいだろうなと思います。ドナルド・キーンさんのように率先してできるかは分かりませんが、そういう機会があった時に、言いたいことが言い切れないまま終わる、なんてならないためにも自分の言いたいことを伝える手段である言語、つまり英語力を磨き続けたいなと改めて思いました。

■■■■ (高三生)

今回のNewsletterでは「英国研修ツアーとパリの旅」がとても魅力的でした。

参加者のレポートを読みながら、私も大学に入学したら留学がしたいという思いが強くなりました。レポートの文面からだけでもH.E.H.生の“奮闘”が見えて、とても良い刺激になりました。

また、卒業生のメッセージで昨年同じクラスで学んだ先輩方の様々な思いはとても重みがありました。そして、TOEFLクラスの授業を初めて受けたとき、多くの先輩方と手ごわい教材を前にして「自分はここでついていけるだろうか」と不安になったことも思い出しました。今振り返ってみると、この先輩方と一緒に学ぶことができたのは本当に良い経験だったと感じています。

H.E.H.で学べるのはあと少ししかありませんが、この限られた時間を無駄にしないように頑張っていこうと思います。

■■■■ (高三生)

今回もNewsletterを興味深く読ませていただきました。

私は特に、「卒業生のメッセージ」の記事が印象に残りました。一つ上の学年の先輩なので、学校やH.E.H.でお会いして直接刺激を受けることもありました。先輩方のメッセージの中で、特に、ある先輩の「やらなくては変わりません」というお言葉がぐっときました。私は、上手いかないことがあると、やる気をなくしてしまい、またやり始めるまでに時間がかかることがよくあります。「やらない」という選択は「やる」という選択よりもつらいのですが、「やらない」という選択肢をつくることで、逃げようとしています。そういう時にまた前を向かせてくれるのは、いつも周りの力です。私はいつもH.E.H.にくると、先生と周りの友達に刺激され、「自分も頑張ろう」と思えます。気づけばH.E.H.に通えるのもあとわずかですが、周りから吸収しながら、私自身も何か自分の中に残せるように頑張りたいと思います。

■■■■ (高三生)

今回、山口県へ転入してくる外国人が増えているという記事